

編集後記

今年も長い猛暑の後に、早足で秋がやってきました。急な気温の変化に体調を崩された先生もおられるかもしれません。さて10月は第71回日本臨床眼科学会が開催され、本『眼科』誌の編集委員である富田剛司先生と不肖私が特別講演をさせていただきました。ただ、今回から学術展示は紙媒体のポスターではなくすべてEポスターとなり、モニターで操作しながらの発表に変わりました。さらに、来春の日本眼科学会総会からはretrospectiveな解析でもすべて倫理委員会の承認が必要になるなど、学会発表の大きな変革の波が押し寄せてきています。

さて、11月号の特集ですが、網膜静脈閉塞症(RVO)の最新の評価法と治療法についての6名の専門家による執筆です。RVOの評価は以前はフルオレセイン蛍光造影が一般的でしたが(今もその重要性を否定するものではありません)、少なからず欠点や制約があり毎回ルーチンに行えるものではありません。本特集では2名のスペシャリストによるOCTの横断面評価だけでなく、最近話題のOCT angiography、さらにはレーザースペックルフローグラフィ(LSFG)での評価まで網羅しています。一方、治療では標準的治療と

なった抗VEGF治療、さまざまな硝子体手術に加え、最新の血管内治療まで解説しています。

総説は3本立てですが、無水晶体眼でのIOL毛様溝縫着に替わるものとして注目されているIOL強膜内固定法では、豚眼による実践的手術練習の方法まで写真・模式図込みで詳しく解説されています。網羅的迅速PCR検査の総説でもそのまま先進医療として行えるほど詳細な記載がされています。3本目の眼血流が示す全身状態に関する総説は、従来の総説のスタイルを踏襲したのですが、内容は最近のLSFGの知見も加えて解説してあります。

また、機器・薬剤紹介は機能選択的視野検査「Pulsar法」の紹介です。視野検査ではより早期に視野異常を検出するため、さまざまな方法・機器が開発されていますが、これは網膜神経節細胞のなかでも大細胞系の機能を測定しようとするものです。

本誌はこのように特集・総説をメインとしています。読者の投稿も積極的に受け付けています。日本や世界でもまれな報告というのではなく、読者に教訓的な症例報告も大歓迎です。是非皆様のご投稿をお待ちしております。
(三村 治・記)

編集：飯島裕幸・富田剛司・坪田一男・後藤 浩・雑賀司珠也・門之園一明・三村 治
編集顧問：所 敬・小口芳久・白井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治

「眼科」 第59巻 第12号 11月号

2017年11月5日発行(毎月1回5日発行)
定価(本体2,700円+税)

年間講読料金 定価(本体42,100円+税)
[年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代]
[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

雑誌部 振替口座 東京 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。